編集後記 ── 結びにかえて

ORC整備事業「フランス革命と日本、アジアの近代化」は5年間の計画の最終年度となり、この『歴史学研究センター年報』も一つの区切りを迎えました。事務長として御挨拶申し上げます。

このたびの『年報』には、今年度2回開かれた公開講座と、フランス・インド・韓国からフランス革命研究者を招いて開かれた国際シンポジウムの記録を収録しています。報告・執筆について御快諾を頂き、貴重な研究成果をお寄せいただいた研究者の方々に心より御礼申し上げます。

『年報』を通覧すると、本書に収録したものを含めて、この『年報』は日本をはじめ世界各国の方々からの御理解と御協力により作られてきたことがよくわかります。年報に収録した論文の本数は40本、公開講座は6回、国際シンポジウムは5回行なわれました。その際、私どもは大いに勉強をし、また御教示頂くなかで交流を深めることもできました。

研究員として加わっていただいた学内外の研究者の方々にも御礼を申し上げます。事業の推進にあたり、具体的な方策を専門的な立場から示して下さったおかげで、前述の公開講座・シンポジウムの開催や史料集の刊行にこぎつけることができました。

本学の関係者、特に図書館の職員の方々には、史料の展示や史料集の刊行について御理解と助言および御協力を頂きました。また、課題の一つであった「ミシェル・ベルンシュタイン文庫」の整理が、本学図書館による具体的な計画と運営のもとに進められたことを指摘しておきたいと思います。

助手と社会知性開発研究センターの職員のみなさんには、こまごまとした、しかし事業推進の土台となる重要な事務作業からポスターの作成、刊行物の編集作業、公開講座・シンポジウム・展示等の運営に至るまで、真剣に携わってもらいました。さまざまな面で事務長を助けていただいたことに感謝します。また、事務作業に追われつつも、日頃の研鑽を具体的な研究成果として発表されたことはこの事業の最大の収穫の一つでした。

そして、言うまでもなくこの事業の性格を理解してくださり、行事に参加し、そして御意見をお寄せ下さった市民の方々に御礼申し上げます。フランス革命をテーマにこれほど多くの御参加を頂き貴重な御意見を頂戴したことは、何よりも私どもの励みになり、また一層責任の重さを実感致しました。どうか、今後とも本学の諸事業に御理解と御支援を賜りますよう、御願い申し上げます。

最後になりますが、本事業のメンバーのお一人の西川正雄先生が2008年1月28日に永眠されました。西川先生は初代の歴史学研究センター長として事業を立ち上げ、本学文学部教授を退任された後も客員研究員として研究に加わって下さいました。研究・運営の両面に亘り、世界史研究者としての立場から数々の提案と助言を頂いたことに感謝申し上げるとともに、心より哀悼の意を表します。

専修大学社会知性開発研究センター／歴史学研究センター事務長
田中　正敬